		建設部	都市整備課				
市　長	副市長	部　長	局長	課長補佐	係長	係　員	担当

会 議 記 録 簿

件　名	第１回 恵那市リニアまちづくり構想市民委員会	記録	今井
日　時	令和８年９月 15 日（火）13：30～14：35		
場　所	恵那市役所会議棟　中会議室Ａ・Ｂ		
出席者	恵那市：鹿嶋部長、原局長、遠山課長、山村課長補佐、西尾係長、今井 委　員：別紙名簿参照		

１．開　会

２．委員の委嘱

３．市長あいさつ
・小坂市長より挨拶

４．委員長あいさつ
・磯部委員を委員長に選出
・磯部委員長より挨拶

５．副委員長選出
・柘植委員を副委員長に選出

６．協議・報告事項
（１）恵那市リニアまちづくり構想の改訂について　　資料①、②

（２）恵那市リニアまちづくり構想改訂の骨子について　　資料③

７．その他

８．閉　会

【質疑等】
大塚）リニアの駅ができる場所は恵那駅と中津川駅からどれくらいの距離感か。
市）概ね中津川駅と恵那駅の中間くらいに位置する場所で、具体の位置としては美乃坂本駅の北側。駅ができるのは中津川市ではあるが、駅を中心として地域として考えた時には恵那市も駅の影響を受けるエリアである。特に大井町の中でも隣接している岡瀬沢は農地が多いが、近くでスマートインターチェンジの整備なども進んでおり、まちづくりの上で重要な地域と

考えている。

遠藤）恵那市はインフラ整備が遅れている。例えば国道 418 号でいうと、2 車線の道を作っているが、武並橋から先は拡幅する計画がない。また国道 19 号のバイパス工事をしているが 2 車線である。駅ができても地域から駅まで行く道の状況が非常に悪いので、そこをもっと考えてほしい。国道 418 号は岐阜の方から見ると裏街道のようなものであり、美濃加茂まで 30～40 分で行けるという整備をしている。西濃や岐阜、地域にとっても、駅まで大回りせずに簡単に行ける方法が必要と思う。

また、新東雲橋も坂本まで回っていけるようになれば利用しやすい道になる。地元の道路整備に一番いい時期であるので、頑張ってもらいたい。

市）市長の挨拶でも少し触れたが、道路整備などいわゆるハード整備の計画は別で作成しており、先ほど言われた国道 418 号や瑞浪恵那道路、他にも豊田明智線といった恵那市から外のアクセス道路についても計画に盛り込んでいる。市道については恵那市として整備をしていき、県や国の管轄の道路など広域のネットワークについてはそれぞれと連携して整備をしていく。

遠藤）リニアの需要をうまく使うという発想が大事で、それにより道路整備が変わってくると思う。日本の真ん中で非常にいい場所だと思うが、やはり道路が悪いと人が集まらない。

磯部）基盤整備を進めるためには、このまちをどういう風に良くしたいか、このまちでこんなことができる、という考えが大切で、今回の構想がまさにその部分である。そういった夢みたいなものがないと、どういう道路を造るのかという話になってしまう。

大塚）私が富山にいた頃にライトレールが開通し、交通革命的な所に立ち会った。リニアも同じ立場にあると思うが、駅ができたときに通常なら名古屋などへの利用が多いと思うので、岐阜県駅に降りたいと思える理由がないと、そこで降りてもらえないと思う。富山にいた頃に新高岡駅という新幹線の駅ができたが、やはり通過駅になってしまっており、観光客は金沢まで行ってしまっていた。

例えばＳＬを走らせて、恵那駅まではＳＬに乗ってきて、恵那駅からはドローンで恵南に行けるとか。わざわざ行きたい、遊ばせたいものを作ることが大事だと思う。駅周辺地域の人は外に行くためにリニアを使うと思うが、外から来ると考えた時には、そのための理由がないと弱いと思う。

青山）東京からこの地域に来たいという主な理由は観光になると思う。恵那峡、中山道、明知鉄道などを組み合わせたモデルコースをリニアの駅から無人のバスを活用して作ったり、中津川市とタイアップして、中津川市なら苗木城、恵那市なら恵那峡や岩村明智などをセットとした周遊をすると効果があるのではないか。

渡邉）交通事業者、あるいは観光関係としてひとつ言えるのは、例えば新幹線でいうと、京都や大阪は混雑していて交通のアクセスや駅構内が非常にわかりづらい。駅がシンプルであるということは一つの利点になるのではないか。

また岐阜県駅で降りてからのアクセス、例えば 10 年後だとドローンタクシーもあるかもしれないが、観光地まで直接行ったり、2 次交通としてレベル 4 のタクシーであるとか、そういったものも将来はあり得ると思う。恵那市では 13 地域それぞれで人を呼び込むための活性化の取組みをしており、食べ物や観光資源などをＰＲしているので、それを市内でリンクしながら周遊するという形も大切と思う。

藤本）やはり高齢化が進んでいて、空き店舗も非常に多く空き家も増えているので、その活用方法を考えていかないといけない。若者が空き店舗を活用して商売ができるような支援が必要だと思っている。高齢者で店をたたむ人が多くなっている中で、商売は維持していきたいが後継者がいないということで、そういった支援を進めていく必要があると思う。

三宅）オブザーバーとして参考のデータを示させてもらうと、品川から名古屋までの間には４つの中間駅（相模原、山梨、飯田、中津川）があるが、品川から名古屋までノンストップでいくと40分程度、各駅停車の場合は品川から中津川まで約１時間程度、中津川から名古屋までは15分程度という試算がある。

磯部）この地域の人がリニアで外へ出るパターンと、外から恵那や中津川に来るパターンがある中で、ここに来たい、住みたいと思われるような魅力を構想に位置づけていく必要がある。

市）今地域の店舗の担い手のお話があったが、持続的な地域づくりという面で、例えば人が来て今までなかった店舗が増えることは嬉しいことではあるが、今までその地域にあった店舗は恵那市が持っている魅力であると思うので、それらをどうやって維持していくかという視点の施策も必要だと考えており、構想の中に落とし込んでいきたいと考えている。

青山）恵那駅の正面に状態が悪い空き家があり、何とかならないかと思っている。また駅前の花壇の管理について、何も植えられていないままになっている。継続できるものを作っていくことも大切である。

磯部）地元の人が普段感じていることと、外から来た人の見え方は違う。地元の人が何気ない大したことがないと思っているものが、外から来た人にとってすごく面白く魅力的に見えることがあるが、今の話はその逆のパターンである。地元の人はもう見慣れているが、外から来た人にはそれでがっかりしてしまうこともあるので、外からの視点も考慮しバランスを取った見方が必要だと思う。

私は栗きんとんの季節を楽しみにしている。残念ながら栗きんとんは日持ちがしないので全国流通していない隠れた名産と言えるものだが、それを全国の人に来てもらって、栗を潰して自分で作って食べる所までできるようになったらすごく面白い話になる。恵那の人にとっては当たり前で意識していないが、全国の人にとってはそういう風に感じる物もあったりする。そういったものを大事にしながら全国に発信していく。

もうひとつ、関係人口について、少し前は交流人口という言葉を使っていた。関係人口は人の行き来がなくても恵那のことを想ってくれているというイメージ。例えば恵那の産物を食べて、美味しいからまた注文したいねと。こういった人たちも立派な関係人口である。この地域のファンになってもらうということができる。若者が新しく店を始めた時に、近所のお客さんだけでなく全国がお客さんになるから、恵那でいいものを作りながら全国発信していくようなやり方もあると思う。そういったものを積み上げていくと、恵那のまちのストーリーになると思うので、そういった魅力を構想にまとめていけるといいものが出来上がると思う。

大塚）関係人口の話について、やはり交通が良くなったから人が来るという考えはしっくりこない所があり、来るだけの理由を作ることが一番大事だと思う。例えば温泉に行きたいとなったら下呂温泉といった感じで、わざわざ行きたい理由となるものが頭にないと岐阜県駅自体に目がいかないということもある。そのわざわざ行くという部分を皆さんで考えることが一番大事だと思う。関係人口を増やすというところも、ふるさと納税3.0を例でいうと、外から応援してくれる仕掛けをこちらから仕掛けて、そこに乗ってもらって恵那市を認知してもらう話

であり、そういった仕掛けをしていかないと、リニアが通ったから人も来るだろうという考え方は違うと思う。岐阜県駅と飯田どっちがいいのかという話になったときに、「〇〇があるから岐阜県駅で降りよう」となるものが、起点として必要という風に感じる。

市）今委員から出た意見の中でどうやって恵那に来てもらうかというところについて、構想骨子の観光まちづくりでも触れているが、例えば観光まちづくりの部分で恵那らしさを出そうとしたときに、少し前には「半分、青い。」が、最近では「VIVANT」があるなど、ロケ地での活用も増えてきているので、ロケ地というテーマで結び付けた観光を考えたら恵那市らしい特徴になるのではないかといったことは観光所管課からも出ている。

すでに恵那市にある地域資源、ロケ地のように今後新しくできる資源などある中で、一定のテーマで結び付けていくと、先ほど委員長が言われたような栗きんとんを栗を取るところや作るところから体験するというものもひとつのテーマになると思うし、こういった恵那に来たらできることを作っていくことが強みになると思うので、施策の中でそういったところを反映させていくと、恵那らしいまちづくり構想を仕上げていけると考えている。

以　上